

第2回



子どもの個性と100通りの子育て

～たくさんの笑顔へ～

実施報告

【日時】 平成30年6月27日(水) 午前10時～12時
【場所】 大内地域交流センター 講堂
【講師】 堀川 貴美子氏 堀川 玄太氏
【受講生】 大人 48人

ウォーターアート

最初の20分ほど、ウォーターアート®パフォーマーの玄太さんに、ウォーターアートを見せていただいた。

ウォーターアートとは、音楽に合わせて、水で地面や石膏ボードに絵を描くパフォーマンス。

箒や霧吹きを使い、風神雷神や桜の木などの絵を描いていただいた。



風神雷神を描く玄太さん

今まで、4人の子どもを育てて、全員元気に育ってくれました。子どもが元気に育つのは、親としてとてもうれしいことです。

でも、それは親だけの力ではありません。周りの人たちにたくさん助けられてきました。

堀川貴美子先生

子育ては楽しく！

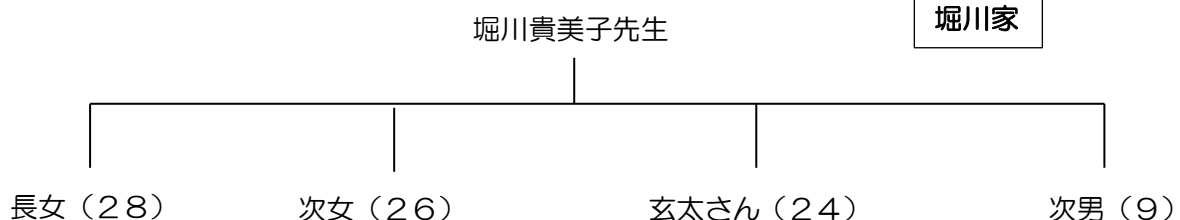
4人の子どものうち、3人が発達障がい。

周りから見たら、「大変そう。」「3人も発達障がいなんて気の毒…。」と思われるかも…。

でも、今だからか言えるけれど、とても楽しい！ 母親として成長させてもらったと感じている。

子育ては『楽しく』ないとしんどいと思う。

いろんな子育てがあって良いし、そこにはいろんな笑顔があると思う。



今までの子育て

♡長女（定型）の子育て

- 妊娠しているとき
親として新米のころ。
見た目ばかり気にして、産科の先生によく聞いていた。

指はちゃんとある？

心臓は大丈夫？



• 産んだあと

産んではじめて母の気持ちが少し分かった。

はじめての子育てで、「周りについていかなければ」という気持ちが強く、よく勉強などの口出しをした。

思春期になると、とても大変で、「自分も親に負担をかけていた」のが分かった。

♡次女（LD）の子育て

• 小学生のころ

1年生のとき、学校で「作文が書けない。」と言われた。

2年生になると、算数で「前回覚えたはずの計算ができない。」と言われ、専門機関で受診検査をした。

⇒ 玄太さんより重度のLD（学習障害）との診断。



次女ががんばって勉強しているのに「なんでできないの。」と言わなくて済む。

次女なりの100%を認めてあげることができることに気づけたので、診断が出たときは逆に嬉しかった。

3年生のころ、クラスメイトにカミングアウト。

⇒ 「自分だけが悩んでいるわけじゃなかった。」という手紙をもらった。

⇒ クラス全員分の良いところをお互いに書き出して、**誰にでも得意不得意がある**ことを受け入れてくれた。（例：次女は体育が得意、勉強は苦手）

⇒ 教科書にルピをふってくれるなど、自然と助けてくれるようになった。

♡次男（自閉症）の子育て

高齢出産で、産科の先生からも「いろいろ考えておいてください。」と言われた。

• 保育園のころ

保育園に入園。こだわりが強く、不思議な行動をしていたが、お友達は受け入れてくれていた。

⇒ 園で専門機関に掛かることを勧められ、検査。

医師から典型的な自閉症と診断された。

兄弟の反応は「**出来ることを伸ばしてあげられるね!**」

兄弟に嫌な顔をされず、親として嬉しかった。



♡玄太さん（ADHD）の子育て

• 赤ちゃんのとき

仮死状態で生まれ、NICU（新生児特定集中治療室）へ。

心臓さえ動いていてくれたら…

長女のころと比べ、出産・子育てを経験してきたおかげで親が成長し、感じ方が変わった。

右手の麻痺があったが、担当医から「**むやみに触らなければ、血腫は体に吸収される。**」と教えてもらい、手術をせずに済んだ。

⇒同じ症状の他家の子は、その情報を知らずに手術することに…。「知る」ことは大切。



・3才~5才のころ

3歳児検診時に視力検査が理解できず、検査をしてもらった。

⇒ ADHD（注意欠陥多動性障害）と判明。



「もうちょっとしたら落ち着く」？ 困っているのは“今”です！

療育センターに通園させようと思ったけれど、当時は知的障がい者のための施設だったので通えなかった。

⇒ 病院の先生に紹介状を書いてもらったが、定員がいっぱいで入園は半年待ち。

⇒ 支援センターでは、小学校入学に向けての生活訓練を中心に行った。

小学校の仮入学のとき

テレビや備品棚など、触ってはいけないものに赤いテープを貼ってもらった。

（赤いテープが貼ってあるものは触ってはいけないと約束しておく）

触らない = 怒られない = 本人が落ち込まないで済む

当時は重度の喘息もあり、入退院を繰り返していた。

発達障がい知られておらず、玄太さんが入院中には、看護師に「帰らないでください。」と言われていた。

⇒ 長女と次女も悩みを抱え込んでしまい、ストレスで体に異常が出てしまった。



長女と次女の帰宅場所を病院にさせてもらうと、落ち着いた。

「手がかからない子こそ大事にして、抱きしめてあげなければ…」と思った。

・小学生のころ

地元の小学校（支援クラス）に入学。

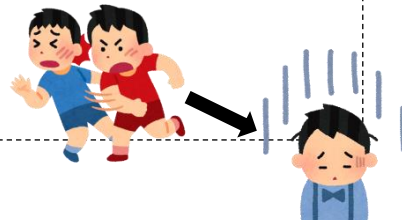
姉と一緒に通っていたが、遅刻気味で、地域の方にも「急げ！」と言われていた。

⇒ 校長先生に文書を出してもらい、「がんばれ！」と温かく見守ってもらえるようになった。

お友達に触られたのを『殴られた』と感じてしまい、パニックに…

⇒ 叩いてしまうこともあり、冷静になると落ち込んでいた。

⇒ 「叩いてしまったことは謝ろう。」と伝えた。



どうしてパニックになったのか、理由を聞いてあげると落ち着く。

⇒ 予想外の理由の時も多い。

⇒ 理由が分かれば、次からは気を付けることができる。

交流学級で、45分間じっと座っていた。

⇒ とても褒めてもらえると思っていたが、先生には「出来るじゃん！」と軽く言われただけ。

⇒ ショックで学校に行けなくなった。



動いて褒められることをしよう！

⇒ 畑仕事の手伝いをはじめると、とても褒めてもらえるようになった。

⇒ 守るものができて、だんだん入院が減っていった。



・中学生のころ

公立中学校の支援クラスに進学。

2年生のときに、「高校は支援学校へ行く。」と決めた。

➡ 3年生になると、「やっぱり普通高校へ進学したい。」

私立高校を受験し、合格。

※普段は『必ず』などの言葉は使わないが、自分で決めたことなので「必ず卒業する。」と約束した。

・高校生のころ

人間関係がこじれ、学校に行けなかった時期も…

⇒ 「自分がパニックになってまわりを傷つけたり、迷惑をかけたりするのが怖い」という理由。



「人を傷つけないことだけ気を付けて。物は壊しても何とかする。」

と言うと学校に行けるようになった。



※現在は、就労継続支援B型で働きながら、ウォーターアート®のパフォーマンスをしている。

ウォーターアート パート2

貴美子さんの話してくださったことを踏まえ、20分ほどウォーターアートのパフォーマンスをしていただきました。



堀川先生からのメッセージ

☆さまざまな情報を知ることが大切です。

☆些細なことが分からなくて困っている子どもが、実は多いのかもしれない。

☆発達障がいの子のための工夫は、普通の子にも通用します。

☆しっかり理由を聴いてあげましょう。その子なりの理由があります。

☆親は同じように接しているつもりでも、障がいがある子（手のかかる子）の方がたくさん褒めてもらえるように感じてしまうものです。兄弟もしっかり褒めてあげましょう。

☆同じADHDでも100人いたら100通りパターンがあります。障がい名で対応を決めず、その子自身を見てあげてください。

講座の様子から

約2時間の間、先生の体験をもとにたくさんのお話をさせていただきました。受講生の方は真剣に聞き、最初と最後に玄太さんにウォーターアートを見せていただいたときにはじっと見入っていました。

休憩時には、会場に展示した玄太さんの活動や今までの記録などを熱心に見ていらっしゃいました。

アンケートにもたくさんの感想が寄せられました。

※これは堀川家の事例です。子どもによって成長の仕方は違います。

受講生の方からの

ご意見・ご感想

一部

ご紹介

- ☆「みんなちがって、みんないい」と、金子みすゞさんの詩を思い出しました。
みんな繋がりがあっていて、共に生かされていると感じます。
1 つひとつの命を大事に、変化を楽しみにしながら、これからも共に生きていきま
しょう！
- ☆育児にたくさんの焦りを感じていました。他の子と比べてしまうこともしばしば…。
でも、「子どもの個性を認めて、一緒に成長すればよいのかな。」と思えました。
ありがとうございました。
- ☆堀川さんのお話の中で、「知ってもらうことが大切。」という言葉がとても印象的でし
た。うちの子も発達障がいなので、発達障がいのことだけでなく、子ども自身のこと
をもっとよく知ってもらえるように頑張りたいと思います。
- ☆発達障がいを抱える子どもへの接し方について、専門的と言うより親としての実体験
を聞いて大変参考になりました。
堀川玄太さんの今後のご活躍を期待するとともに、我が家の目標にしていきたいと感じ
ました。
- ☆障がいにとらわれず、1人ひとりの性格を見、対応していくことの重要性を再確認。
お母様も、4人の子育ての中、様々な苦労の中、子育てが楽しいと思える、楽しいと
感じるようなものの考え方のシフトチェンジ、大変勉強になりました。
玄太さんのこれからの活躍、ますます期待しています！すてきな講話&パフォーマ
ンスをありがとうございました。
- ☆子育て、楽しいことも苦しいこともあるものだなあ。それで良いのだなあ。と安心し
たような気がします。
玄太さんの描かれた絵では何度も涙が出ました。愛が伝わってきたからだと思いま
す。愛された人だからこそ、描けるのだと思いました。



御協力ありがとうございました